

# インバウンド、観光、コミュニティ、防災 多角化する地域の拠点

最初の社会実験から数えて25年、「道の駅」はこの四半世紀の間に全国で1093駅、道内で117駅まで伸長した。そしてその役割もドライバーの休憩ポイントから地域振興の拠点にまで発展している。北海道の「道の駅」の最新の動向について、国土交通省北海道開発局建設部道路計画課の谷村昌史課長に聞いた。



国土交通省北海道開発局建設部  
道路計画課 谷村 昌史氏

## ■外国人観光客への対応

平成5年4月、「道の駅」制度が始まったとき、道内で選ばれたのは道の駅「三笠」などわずか14駅に過ぎなかった。そこから10倍近くに発展しても「道の駅」の機能は基本的には変化していないと「道の駅」を所管する国土交通省北海道開発局建設部道路計画課の谷村昌史課長は言う。

『道の駅』は24時間管理のトイレと駐車場を備えた『休憩機能』、道路情報や地域情報を発信する『情報発信機能』、観光や文化など地域振興に資する『地域連携機能』の三つが登録要件となっていますが、これ自体は今も昔も同じです。ただ『道の駅』への期待が高まり、これらの機能が年を追うごとに高度になっています。

たとえば、最初の頃は、既存の施設を改修し、トイレと駐車場に加え、情報発信機能を整備すれば良いだろうというものもありましたが、現在では最初から『道の駅』として設計され、整備されるものがほとんどです。『休憩機能』『情報発信機能』についても、『道の駅』は近年増えている外

国人旅行者の受け入れ拠点となることが求められるようになってきました」

谷村課長が言うように北海道を訪れる外国人旅行者が年々増加している。平成27年度は135万人、5年前の平成23年度の57万人と比べると倍以上の伸びとなっている。政府は平成32年(2020年)のオリンピックイヤーに向け「インバウンド4000万人」という目標を掲げている。これを受け観光庁では外国人旅行者を引きつける「広域観光周遊ルート」を設定し、北海道では「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」と「日本のでっぺん。きた北海道ルート」が認定された。

外国人旅行者で近年目立って増加しているのが個人客とレンタカー利用の増加だ。こうした個人の外国人旅行者の拠点として期待を集めているのが「道の駅」である。こうした状況に対して北海道開発局は情報化と多言語化によって「道の駅」の国際対応に取り組んでいると谷村昌史課長は言う。

「平成27年に外国人が道内で利用したレンタカーは3万8000台に達しました。こうした個人客に対して質の良い案内は北海道観光の底上げになります。『道の駅』は自治体が設置・運営するものですが、北海道開発局でもインバウンド観光を支える環境整備に積極的に取り組んでいます。

具体的には「道の駅」に設置された情報提供端末が更新時期を迎えたことから、外国人旅行者にニーズの高いWi-Fiスポットとして『道の駅SPOT』をこれまでに約8割の駅に設置しました。さらに、外国人旅行者の受け入れ環境整備として、絵文字を指さして意思の疎通を図るコミュニケーションボードや写真入りのメニュー、HPの多言語化などを進めています」

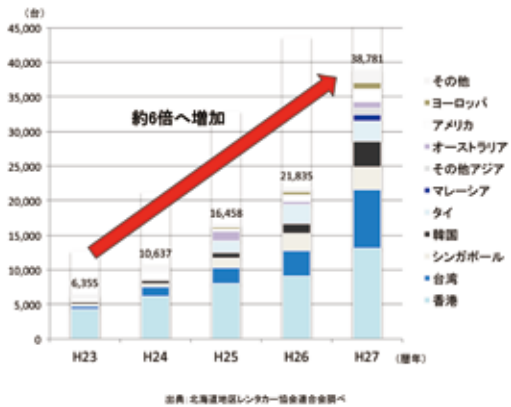
北海道の「道の駅」利用者数と登録駅数の推移



## 訪日外国人来道者数



## 外国人へのレンタカー貸渡推移(国別)



## ■スタンプラリーを通じた質の向上

国内旅行者においても、旅行拠点としての「道の駅」の人気の高まりはスタンプラリーに見てとれる。平成26年度には3万8957名が参加、平成27年度には4万2776名が参加し、各賞への応募者は6878名にのぼった。

北海道開発局は、「道の駅」の「情報発信機能」「地域連携機能」の向上に資するツールとしてスタンプラリーに着目し、独自の施策を打ち出している。

平成28年3月26日、北海道新幹線が開通し、北海道の交通は新しい時代を迎えたが、平成28年シーズンのスタンプラリーは例年ゴールデンウィーク前としていた開始日を北海道新幹線の開業日とし、新たに北海道新幹線が結ぶ関

東・東北・北海道の「道の駅」スタンプを押すことで応募資格が得られる『関東・東北・北海道「道の駅」賞』を設けた。また平成28年シーズンからは、スタンプブックに北海道独自の試みとして「MapQR」を全国に先駆けて導入した。「MapQR」は地点情報が読める最新のQRコードで、スマートフォンやカーナビでの地図確認と連携できる。

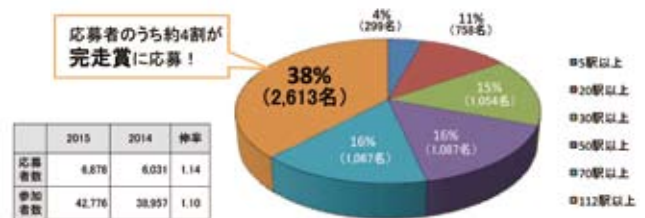
さらにスタンプラリーは、「道の駅」の質の向上を図るための調査ツールとしても重要と谷村課長は言う。

『道の駅』スタンプラリーの完走者から応募いただいたアンケートを集計し、項目別にまとめています。『道の駅』の人気投票は雑誌などでも企画されていますが、これは道内全ての『道の駅』を回った完走者による評価なので価値が高い。

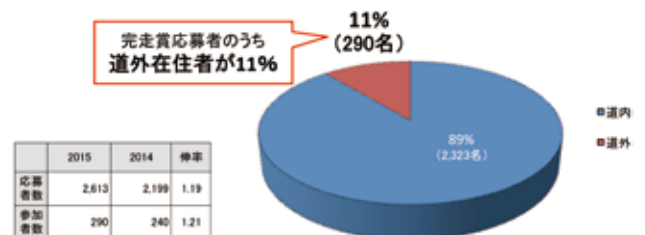
アンケートで評価の高い『道の駅』は新しいところが多いですが、平成28年のランキングでは“ゆっくり休憩ができたと感じた『道の駅』”として名寄市の『もち米の里☆なよろ』が圏外からランクインしています。ここは平成20年の登録で、新規でも、大規模なりニューアルが行われたわけでもない。調べてみると、ベンチを置いたり、ガーデニングに凝ったりと地道な努力がありました。このアンケートは、努力が利用者の評価(魅力向上)につながることを示しています」



## スタンプラリー各賞の応募者の割合



## スタンプラリー完走賞の道内・道外割合



ゆっくり休憩ができたと感じた「道の駅」TOP10

順位	「道の駅」名	前回順位	投票数(有効回答数=1,307件)
1	厚岸温泉 (2011.7 リニューアル)	3位 52票 ↑	92
2	厚岸グルメパーク (1994.4 登録)	1位 67票 ↓	80
3	くろまつない (2011 リニューアル)	2位 58票 ↓	70
4	サーモンパーク千歳 (2015.8 リニューアル)	圏外 ↑	63
5	ライスランドさつる (2013.4 リニューアル)	8位 30票 ↑	47
6	おんねゆ温泉 (2011 水族館併設)	4位 47票 ↓	42
7	スワン44わむろ (2013 テッキ設置)	6位 39票 ↓	37
8	もち米の重なるよろ (2008.4 登録)	圏外 ↑	31
9	うとろ・シリエトク (2007.3 登録)	5位 43票 ↓	31
10	おびら旅番屋 (2015.4 リニューアル)	圏外 ↑	30

※「道の駅」登録年月は、施設オープン時期と異なる場合があります。 ※リニューアルは近年行われた全面的なリニューアル時期を記載

地域や観光の情報提供が充実していたと感じた「道の駅」TOP10

順位	「道の駅」名	前回順位	投票数(有効回答数=1,043件)
1	うとろ・シリエトク (2007.3 登録)	1位 103票 →	133
2	そうべつ情報館(アイ) (2007.11 リニューアル)	圏外 ↑	54
3	流水街道網走 (2008.12 登録)	5位 43票 ↑	54
4	あきひかわ (2013 内装改修)	4位 44票 →	53
5	ニセコビュープラザ (2002 増築)	3位 47票 ↓	43
6	厚岸温泉 (2011.7 リニューアル)	2位 51票 ↓	43
7	わかかない (2012.3 登録)	9位 26票 ↑	40
8	サーモンパーク千歳 (2015.8 リニューアル)	圏外 ↑	32
9	びえい「丘のくら」 (2007.4 登録)	7位 31票 ↓	32
10	ライスランドふかがわ (2004.4 リニューアル)	圏外 ↑	31

※「道の駅」登録年月は、施設オープン時期と異なる場合があります。 ※リニューアルは近年行われた全面的なリニューアル時期を記載

道路や天気の情報提供が充実していたと感じた「道の駅」TOP10

順位	「道の駅」名	前回順位	投票数(有効回答数=829件)
1	うとろ・シリエトク (2007.3 登録)	2位 72票 ↑	101
2	樹海ロード自高 (1998.8 登録)	1位 79票 ↓	93
3	おんねゆ温泉 (1995.8 登録)	3位 53票 →	65
4	羊蹄中山 (1993.4 登録)	5位 34票 ↑	64
5	そうべつ情報館(アイ) (2007.11 リニューアル)	4位 43票 ↓	53
6	知床・らうす (2009 施設増築)	6位 26票 →	36
7	厚岸温泉 (2011.7 リニューアル)	7位 21票 →	31
8	流水街道網走 (2008.12 登録)	圏外 ↑	23
9	わかかない (2012.3 登録)	10位 16票 ↑	20
10	厚岸グルメパーク (1994.4 登録)	圏外 ↑	17

※「道の駅」登録年月は、施設オープン時期と異なる場合があります。 ※リニューアルは近年行われた全面的なリニューアル時期を記載

暮らしを支える拠点

これまで観光客やドライバーなど外に働きかける機能を見てきた。「道の駅」のもう一つの大きな機能、内に働きかける機能、すなわち「地域連携機能」についてはどうだろうか。

「行政サービスの窓口が置かれたり、コミュニティーバ

スの結節点になったり、周辺に診療所が置かれたり、地域の暮らしを支える拠点になっている施設も増えていきます。今後『道の駅』は行政や医療福祉のサービスなど生活に必要なサービスをワンストップで提供する地域の拠点としての役割も期待されています」と谷村課長は言う。

さらに新しい動きとして「道の駅」を若い世代の教育の場、社会体験の場として活用する事例も見られるようになってきた。これまで稚内北星大が「道の駅」でのインターンシップ、北大、室工大が「道の駅」の活性化につながる提案等を行った。また真狩高校の野菜製菓コースの生徒が道の駅「真狩フラワーセンター」で手づくりのスイーツを販売する取り組みが見られた。



生産量日本一を誇る真狩村産「ゆり根」を使用したクリームを包むロールケーキの実演



お客様とコミュニケーションを回りながら行う販売実習(写真提供:真狩高等学校)



真狩高校の有機栽培コースが作ったイチゴを使ったケーキ(写真提供:真狩高等学校)

こうしたまちづくりの拠点としての機能に加え、東日本大震災と熊本地震によって「道の駅」は防災拠点としても注目されることとなった。

「大規模な自然災害では、災害対応、物資の集結や備蓄の拠点としてオープンスペースが大切です。交通の至便なところに広い駐車場を備える『道の駅』は自治体が管理運営するものであるため、災害時にすぐに転用できます。東日本大震災では大いに活用されましたし、この間の熊本地震でも役立つと聞きます」

北海道では平成25年の「オホーツク暴風雪」で大空町の道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」が臨時避難所として解放され、およそ130名の避難者が暴風雪の過ぎるのを待った。大規模災害への備えが進む中、「道の駅」の防災拠点としての役割は一層重要になっていく。



H25.3 道の駅駐車場への避難状況

## ■官民、地域、連携による魅力向上

登場から4半世紀、「道の駅」はほぼ道内を網羅したと言ってよい。それは「道の駅」を設けることが目的となった時代から、地域地域で「道の駅」の魅力を磨き合う時代に入ったことを意味する。そうした時代に今「道の駅」に求められることは何だろうか。

「『道の駅』が全道に置かれるようになった今、努力している駅とそうではない駅の違いも顕著になってきました。これからは『道の駅』の魅力を地域の努力で磨き上げていく努力が求められます。しかし、多くの『道の駅』は地方にあり、経営者、管理者も自らの駅の運営に精一杯で、新しい情報を仕入れたり、他の事例を勉強したりするゆとりがないのが実情です。拠点と拠点が遠く離れた北海道では特に顕著と言えるでしょう。

北海道開発局では情報提供することで『道の駅』を応援していきたいと考えています。『道の駅』連絡会担当者会議の中で、民間企業からの提案を聞く機会を設けているのは全国でも北海道だけです。民間の情報やアイデアを聞くことで、各駅の魅力向上の取組につながればと期待しています。また自分たちだけで完結することなく、道路で『道の駅』と『道の駅』が連携していくことが大切です。このため連携を高める取り組みにも力を入れています」

平成28年3月14日、札幌第一合同庁舎で北海道地区「道の駅」連絡会担当者会議が開かれ、全道117の「道の駅」から91名の担当者が出席した。年に2回開かれ

る担当会議の最初のものだ。ここでは今シーズンのスタンプラリーの実施要綱や連絡会の活動、新駅の紹介などの議題に加え、北海道開発局、北海道運輸局、寒地土木研究所からの情報提供の他、大手地図会社、システム開発会社などの民間会社5社からプレゼンテーションがあった。

この時のプレゼンテーションでは、物産直売所の販売管理システム、ふるさと納税の手続きと返礼品の受け取りを同時に「道の駅」で行うためのシステム、「道の駅」を利用したグルメパスポートの企画提案など魅力的な提案があった。

平成27年8月27日、道の駅「いわない」で北洋銀行が主催する「『道の駅』魅力アップセミナー」が開催された。北洋銀行は平成26年に北海道開発局と地域活性化に資する連携協力協定を結んでおり、この催しもその一環。「道の駅」への期待が高まる中、金融界もこれを支援していこうという意気込みの表れである。

登場から四半世紀、人と人を結ぶ「道の駅」は人と人の連携によって新たなステージに進もうとしている。



### 〈セミナーの様子〉



### 〈フリーディスカッション〉

